

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

季刊

みる・きく・ふれる 文化財

おうみ文化財通信

vol. 67

Information of Cultural Heritage in OHMI

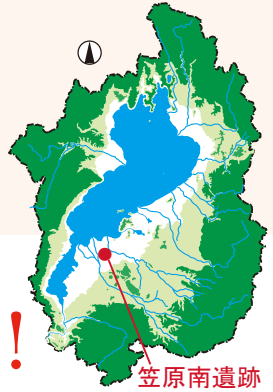
2026 Spring

【調査速報】 二世代にわたる地域首長の墓を発見！ —守山市笠原南遺跡—

【2025年度の調査概要】 県内各地での発掘調査成果を振り返って

【お知らせ】 催物案内・募集

「しがぶん募金」のご支援・ご協力ありがとうございます！



【調査速報】

二世代にわたる地域首長の墓を発見！

もりやま かさはらみなみ
—守山市 笠原南遺跡—



周溝墓群と建物跡

笠原南遺跡は野洲川下流左岸の守山市笠原町に所在し、弥生時代から平安時代にかけての集落跡・生産遺跡(水田耕作地帯)として知られています。

今回の調査は、2024年度から産業用地開発にともない、守山市土地開発公社からの依頼により実施しています。

調査では、おもに弥生時代末から古墳時代初めの、墓の周

囲に溝をめぐらせた周溝墓や、掘立柱建物、水田耕作に関連する溝のほか、古墳時代後期から平安時代にかけての川が発見されました。

周溝墓は、2基の前方後方形周溝墓をはじめとして、その周りにある4基の方形周溝墓とあわせて、合計6基が見つかりました。

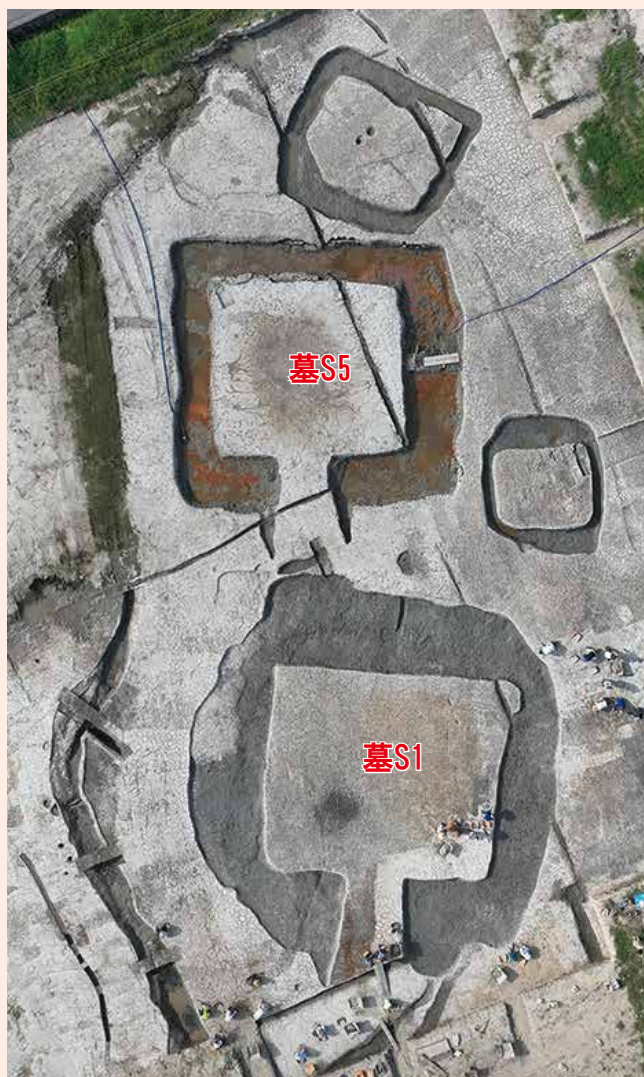


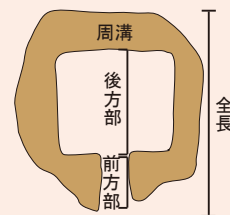
写真1 周溝墓群(南より)

◆前方後方形周溝墓(写真1/墓1・墓5) 見つかった2基の前方後方形周溝墓は、南北に並んでいました。

北側の前方後方形周溝墓(墓S5)の大きさは周溝部を含めて全長19mです。周溝からは埋葬時の祭祀に使われた土器がまとまって見つかりました。それらの土器の特徴から、弥生時代末頃に造られたことがわかりました。

南側の前方後方形周溝墓(墓S1)は、周溝を含めて全長21.5mで、周溝から弥生時代末頃の土器が少量出土しました。

墓S5と墓S1は同時に造られたのではなく、墓S5の埋葬施設への通路にあたる前方部をふさぐ位置に墓S1が造られていることから、墓S1が墓S5より後に造られたと考えられます。



◆^{むなもちばしら}屋内棟持柱建物 周溝墓群の近くには、祭祀に関わる建物が見つっています(写真2)。この建物は、屋内に棟を支える柱を持つ特殊な構造の掘立柱建物です。南西隅の柱穴からは^{どうぞく}銅鏃(写真3)が出土しており、柱材の一部も残っていました。



写真2 棟持柱建物



写真3 銅鏃

◆**今回の調査成果** 今回の調査では、弥生時代末から古墳時代初めにかけての集落景観を考えるうえで、次のような貴重な成果を得ました。①周溝墓から構成される墓域が確認されました。②墓域では二世代にわたる地域首長の墓と考えられる前方後方形周溝墓が2基含まれており、それが南北に並んで見つかりました。③^{かんがい}屋内棟持柱を持つ特殊な構造の掘立柱建物が墓域に隣接して建てられており、祭祀空間の中心を形成していました。④見つかった灌漑水路から、生産域(水田)が広がっていたことがわかりました。

今回の調査で明らかになった生産域・墓域・祭祀空間に加え、今後の調査でさらに居住域が見つければ、当時の野洲川左岸下流域の具体的な景観がより鮮明に浮かび上がってくるに違いありません。



渡 学さん
(草津市シルバー人材センター会員)

◇当協会では、発掘調査の作業員さんとして、シルバー人材センター会員の皆さんにお手伝いいただいています。

～発掘調査現場の作業員さんにインタビュー～ 笠原南遺跡の発掘調査をお手伝いいただいている渡さんは、発掘調査に参加して8年目。御年79歳とのこと。これまで栗東市・草津市・守山市での当協会の調査に参加されています。

Q. 発掘調査に参加するきっかけは何でしたか？

A. 退職した後、仕事を探していた時にシルバー人材センターで紹介されて参加することになりました。

Q. 歴史や遺跡に興味があったのですか？

A. 小学校5年生の時、家の近所で埴輪が出土したことがあって、その頃から興味を持っていました。

Q. この仕事の魅力は何ですか？

A. 体を動かすので健康にも良く、知的好奇心も満たすことができます。そのうえ賃金も出ますので、趣味のゴルフを満喫することができて、良いことがいっぱいです。発掘現場でゴルフ仲間もできました。

Q. 何か目標はありますか？

A. 難しいかもしれませんが・・・ぜひ、教科書の歴史を塗り替えるような発見に立ち会いたいです。

◇調査に参加して、収入を得ながら人生を楽しめるということでしょうか。暑い日も寒い日も共に汗を流して下さっているシルバー人材センター会員の皆さんに日々感謝です。皆さんの熱意ある御協力のおかげで、近江の弥生時代から古墳時代にかけての集落の様子が一段とわかってきました！





2025年度も、当協会では県内各地で各種開発事業にともなう事前発掘調査を実施しました。対象遺跡は時代・性格ともにさまざまですが、いずれもその地域の歴史を明らかにするうえで重要な成果が得られています。今回はそれらの調査から、とくに3つの遺跡をとりあげて、明らかとなった内容を振り返ります。

◆**阿弥陀寺遺跡(近江八幡市)** 文献に記された中世寺院「阿弥陀寺」に推定される大規模な山岳寺院の遺跡です。寺院推定範囲内で砂防事業が計画されたため、2022年度から発掘調査を実施しており、成果の一部は本通信でもお知らせしました(58・61号)。発掘調査の最終年度となる今年度は、寺院推定範囲の北限付近を調査しました。

その結果、斜面を階段状に造成した平坦面を複数確認するとともに、平坦面間の段差部に築かれた石垣・石積を発見しました(写真1)。

本来、平坦面上には寺院に関係する建物等が建てられていたはずなのですが、寺院廃絶後に畑などに利用される過程で建物の基礎部分が削られてしまい、建物などの遺構は確認できませんでした。一方、石垣については、石組みの状況や構造等からみて、中世寺院にともなうと考えています。

◆**上御殿遺跡(高島市)** 弥生時代から中世にいたる複合遺跡です。ほ場整備にともなって現河川を付け替えるため、新川予定地の調査を実施することになりました。

その結果、弥生時代末から古墳時代初め頃にかけての建物跡が20棟以上見つかりました(写真2)。建物跡からは煮炊きや食事に用いられた土器が出土しており、なかには琵琶湖をはさんで対岸の湖南地域の特徴をもつものも含まれています。高島市域の有力な集落のひとつであったと考えられており、次年度以降の調査が期待されます。

◆**笠原南遺跡(守山市)** この遺跡は、1986年度に県道建設にともなって発掘調査が実施された結果、弥生時代から古墳時代、そして平安時代にかけての複合遺跡であることがわかりました。今回の調査は、県道の調査地の東西側にあたり、工業団地建設にともなって2024年度から実施しており、現在も継続中です。

今回の調査では、弥生時代末から古墳時代初め頃にかけてのお墓が見つかりました。その内容は巻頭記事でも紹介したところですが、それ以外にも、古代の遺構・遺物が確認されています。

とくに、川跡は古墳時代から平安時代にかけて長い間流れていたもので、その中から多量の土器などの遺物が出土しました。それには、文字を墨書した土器(写真3)、お祈りに使用した人形代(写真4)・舟形代(写真5)など、一般集落からはあまり出土しない道具も含まれていて、遺跡の性格を考えるうえで重要です。遺跡の具体像についてはこれからの調査で明らかにしていきます。



写真1 阿弥陀寺遺跡でみつけた石垣



写真2 上御殿遺跡でみつけた竪穴建物



写真3 笠原南遺跡でみつけた舟形代



写真4 笠原南遺跡でみつけた人形代

*薄い木の板の表面に墨で男性の顔を描いています。



写真5 笠原南遺跡でみつけた墨書土器

*お椀の蓋の表面に「田」の字を墨で記しています。





◆催物案内1「令和8年度 文化財連続講座」

当協会の調査員や大学の教員がさまざまなテーマや切り口で近江の歴史を紐解く人気の講座。オンラインでも受講でき、遠方の方もお楽しみいただけます。

●場 所 滋賀県埋蔵文化財センター（大津市瀬田）
* サテライト開催（平和堂石山店・県立安土城考古博物館）・オンライン受講あり。

●時 間 10：00～11：30

●受 講 料 12,000円（全講一括）
* サテライト会場での受講およびオンライン受講の場合は8,000円

●申込方法 電話申込。
→077-548-9780(平日8：30～17：15)
* 平和堂石山店での受講希望の方は来店または電話、ホームページからお申込。
→077-531-2828(開店～19：00)
* ご自宅でオンライン受講を希望される方はメールでお申込。
→shop@shiga-bunkazai.jp
(お名前・住所・電話番号の記入必要)

●申込締切 2026年5/15(金) 17：00
* 申込者が受講定員を超えた場合は抽選。

令和8年度プログラム「考古学で読み解く近江の交流史」

- 第1講 6/26(金) 当協会調査員 宮村誠二
「古墳時代の石製品から読み解く近江の交流史」
- 第2講 7/24(金) 花園大学教授 高橋克壽氏
「考古学で読み解く古墳時代北陸の交流史」
- 第3講 8/28(金) 京都橋大学専任講師 小嶋 篤氏
「考古学で読み解く交流史—九州北部と近江の対比—」
- 第4講 9/25(金) 当協会調査員 高島悠希
「古墳時代～飛鳥時代の須恵器から読み解く近江の交流史」
- 第5講 10/23(金) 当協会調査員 川嶋泰輔
「平安時代～鎌倉時代の土師器から読み解く近江の交流史」
- 第6講 11/27(金) 当協会調査員 三好佑佳
「鎌倉時代～室町時代の輸入陶磁器から読み解く近江の交流史」
- 第7講 12/11(金) 当協会調査員 福井知樹
「江戸時代の瓦から読み解く近江の交流史」
- 第8講 1/15(金) 当協会調査員 山口誠司
「城郭の瓦をめぐる交流史—信長死後の安土城造瓦工人のゆくえ—」



※詳細は、当協会ホームページをご覧ください。か、お電話(当協会 077-548-9780 / 平日 8：30～17：15)でお問い合わせください。

←当協会ホームページはこちらから

◆催物案内2 2026年4月～6月 *問合先 0748-46-2424(会場:滋賀県立安土城考古博物館)

”天下人の城”「安土城」は近世城郭の出発点といわれ、軍事拠点としてだけではなく、政治・文化の拠点という性格も持っていました。信長は戦国時代の城の様々な要素を存分に取り入れた、集大成ともいえる安土城を近江に築いたのです。

春季は、「安土山築城前夜 戦国乱世の城」をテーマに、各地の戦国時代の城を取り上げた展示や講座を開催し、その特徴や共通点を紹介するとともに、安土城に及ぼした影響を紐解きます。

戦国時代の城の秘密を探るのじゃ



まめのぶくん ©mana

*入館は16:30まで。



↑博物館

日程	時間	種類	イベント	定員	予約	参加費	会場
4/7(火)～4/23(木)	9:00～17:00	展示	特別陳列Ⅰ『秀吉の城 小谷城』	無	不要	入館料	当館 望楼ホール
4/25(土)～6/14(日)	9:00～17:00	展示	令和8年度春季特別展「安土山築城前夜—戦国乱世の城—」	無	不要	入館料	当館 企画展示室
4/25(土)～7/17(金)	9:00～17:00	展示	特別陳列Ⅱ『豊臣の城1 長浜城と城下町』	無	不要	入館料	当館 望楼ホール
4/29(水・祝)	10:00～16:00	探訪	城郭トレイル『観音寺城跡と桑賣寺』①	10名	要	2000円	当館・観音寺城跡・桑賣寺
5/10(日)	10:00～16:00	探訪	城郭トレイル『観音寺城跡と桑賣寺』②	10名	要	2000円	当館・観音寺城跡・桑賣寺
5/17(日)	13:00～16:00	探訪	城郭トレイル『安土城跡』①	20名	要	2000円	当館・安土城跡
5/24(日)	13:00～16:00	探訪	城郭トレイル『安土城跡』②	20名	要	2000円	当館・安土城跡
6/6(土)	13:30～15:00	講座	春季特別展開連講座「六角氏と観音寺城」講師：新谷和之氏(近畿大学准教授)	120名	不要	500円	当館 セミナールーム
6/13(土)	13:30～15:00	講座	春季特別展開連講座「考古資料と歴史資料 一乗谷・小谷城の文字資料を中心として」講師：佐藤圭氏(元一乗谷朝倉氏遺跡資料館副館長)	120名	不要	500円	当館 セミナールーム

【お知らせ】文化財で人づくり・地域づくり

「しがぶん募金」のご支援・ご協力ありがとうございます！



「しがぶん募金」は、2025年度には95,000円(2026年2月末現在)のご寄付をいただきました。寄付金は、文化財が持つ価値と情報をさらに活かして、時代を担う人づくり、地域づくりのための、様々な普及啓発に使わせていただきます。

寄付をいただきました皆様への感謝の意を含め、ご芳名を掲載させていただきます。

◆2025年度 寄付者様ご芳名(順不同・敬称略)

西村 修・廣瀬 雄兒・吉田 勝晶

【掲載を希望されない寄付者様】 他7名 (2026年2月末現在)

*ご芳名の公開を希望されない寄付者様につきましては、掲載しておりません。

今後とも、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



2025年度普及啓発事業の一部(京都橋大学生のインターンシップ実習のようす)